

～R5年度 第3回～
プチサロンふくちゃんきたちゃん

どなたでも気軽にご参加ください。

▽日程：3月6日（水）▽時間：11:00～14:00

▽場所：総合社会福祉会館(北区役所7階)

▽内容：

- ・福祉のお店
- ・ミニ教室：フェルトバッグを作ろう！
- ・展覧会：作品展示、活動紹介など
- ・ステージ(13時～) 北区団体の活動紹介
- ・集めるだけでボランティア(フードドライブ)

▽問合せ：☎ 915-7435

▽主催：ふくちゃんきたちゃん

ボランティア委員会

▽共催：北区役所



日本を代表する実業家、松下幸之助の言葉です。松下は一九六五年に社内で週休二日制を導入しました。松下は社員に「二日間の休みを無為に過ごすのではなく、心身ともにみずからの向上をはかる適当な方法を考えてほしい。それは単に自分の為ばかりでなく、社会の一員としての義務でもある」という趣旨のメッセージを投げかけたそうです。これからも大切にしたい言葉の一つです。

一日休養、一日教養

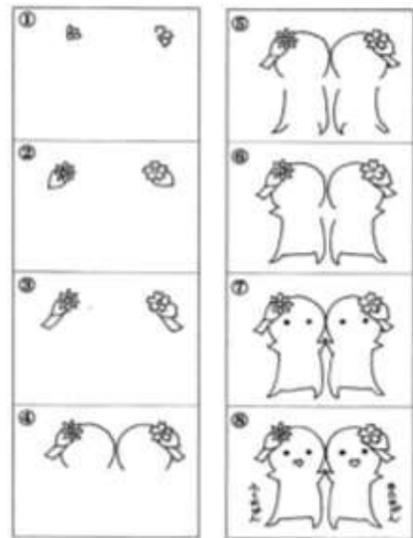
松下幸之助

第37回私の好きなことばリレー

北区西部いきいき支援センター分室
主事 岸本 尚大 さん



ふくちゃんきたちゃん



お絵かき辞典

その16

自分で絵を描くのが苦手でも、順番に書いていけばステキな絵が完成します。楠学区にお住まいの楠三郎さん(ペンネーム)によるお絵かき辞典。

編集後記

12年間を振り返って

平成22年度より北区の福祉活動計画にて地域のみなさまのご意見から“地域情報を発信していく広報紙”として本紙が誕生。地域で活動する個人・団体の紹介、各種特集など北区内の様々な地域情報を発信してきました。『地域ほっとニュース』としては今号で最終号となります。来年度からは、本会広報誌『ふれあいきた』と統合し、新しい形で発信していきます。今までご愛読いただいたみなさま、ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。(担当 松尾)

ちいきとニュース

目次

- 1 きたくのキラッとさん(上松昭夫さん)
- 2 3 特集：わたしとぼくの居場所 ばれっと(東町交流センター)
- 4 イベント・お知らせ情報
私の好きなことばリレー【第37回】
北区西部いきいき支援センター分室 岸本主事



きたくのキラッとさん

『きたくのキラッとさん』とは、北区で活躍する“人”にスポットを当て、記事にするコーナーです

金城学区在住、車いすユーザーの上松昭夫さんは身体障害者相談員として活動しながら、福祉に関わるイベントやプロジェクトで活躍中。この度『第41回東海テレビひまわり賞』を受賞されました。

上松さんは4歳の時、ポリオにかかり両下肢機能障がいとなりました。中学卒業と同時に自身の特技を活かし時計修理の技能を習得、時計・精密機械・ジュエリー制作など手先を使う仕事に従事。その後一念発起し、独自で習得したパソコン関連業務へ転職、定年まで勤めあげました。58歳から車いすユーザーとなり、福祉活動を開始。現在に至るまで福祉のまちづくり、防災関連行事、学校での福祉教育など当事者の視点で発信、活躍されています。

上松さんのモットーは「あきらめない気持ちで 自分のことは自分で」。学校の福祉教育講話では「障がいがあってもなくても人それぞれ苦労はある、あきらめないで自分で一つ一つ進めていくという気持ちが大事。でも、できないと思ったら周りに助けてもらうことも大事。」と、困った時支えてくれた家族の存在に想いをはせながら、子ども達にお話しをしていただきました。

身体障害者相談員の活動では、手続き全般についての質問から、ただ胸の内を話したい方など相談内容は多岐にわたるそう。「何をどうしていいかわからない」と悩む方には、役所へ同行、職員に伝えたいことを代弁するなど、やさしく丁寧に相談者に寄り添っておられます。

20代から所属する北区身体障害者福祉協会は、今は会員が半減、若くて50代と高齢化問題に直面。負けてたまるかの精神で役員なども務めてこられたそうですが、今後は多くの方に参加していただき、引き継いでいきたいとのことでした。

得意なことは人を好きになる事。「人が人を呼び、つながりがつながりを生む。1人より2人がいいよね。」と上松さん。今後について伺うと、「活動しているとたくさんの良い取り組みがあるが、みなさんにいきわたっていない。PR活動に力を入れていきたいです。」と今後の抱負を語って下さいました。



ポッチャ交流の様子 ↑
ひまわり賞を受賞 ↓



保護者の方からも話を伺いました。夫婦で勤務時間を調整し、親子でここに通う母親は「息子が学校に行かなくなり、二人で自宅にいた時は、親も子も孤独でどうしていいかわからなかった。」と当時を振り返ります。学校以外の通いの場はまだ少なく、子どもが気に入っても満員で入れないなど、『ぱれっと』に出会

で作った器で、そうめんを食べ、秋にはお月見会など季節のイベントを企画。また、譲り受けた鯉節削り器で、子どもたちと一緒に鯉節を削って食べたこともあったそうです。ボランティアさんにとっても初めての体験でとても盛り上がったそうです。



小上がりスペースと子どもの手作りおぼけ



おもちゃやマンガなどもあります

「ここが安心して過ごせる場所になってほしい。」と齋藤さん。「家の中だけだと自分を責めて内に向かってしまい、親も子も苦しうまでは、居場所探しに苦労されたとのこと。『ここ』は、子どもが1人で通うことが難しい場合でも、親子で通うことを歓迎してくれました。手を差し伸べてくれる場所が見つかりありがたかった。」

最近『ぱれっと』に通う親同士で、新しい通いの場も探したりと、ここでのつながりも生まれています。『ぱれっと』という名前は、たくさん色があるように子どもたちにも様々な個性があり、個性を大切にしたいとの思いから。

い。一歩外に出る気持ちが持てたら、是非来てほしい。ここには色んな子どもも大人もいます。ひとりでも悩まないでください。気持ちになれればうれしいです。」と心温かい言葉をいただきました。「地域の支えになり、ボランティアにとっても居場所となれば。」とボランティアも随時募集されています。

『ぱれっと』は、訪問して帰るまで、終始居心地のよい場所でした。必要とされる方に本記事をお届けしたいという想いを胸に、ここを後にしました。

わたしとぼくの居場所
ぱれっと
(東町交流センター)

〒462-0825
北区上飯田東町
1-18-1
電話: 910-3066 (佐藤)
毎週木曜日 10時~15時

『ぱれっと』で月に1回の英会話教室
ジョディ&カイルの
Let's learn English!

- ★ 日程: 月1回(土曜日) 要問合
- ★ 時間: 15時半~16時半
- ★ 対象: 小中学生(無料)
- ★ 問合せ: 090-4115-0292 (ホンダ)

月1回、現役高校生のジョディさんとカイルさんが英会話教室を開いています。将来英語教師を目指すジョディさんは、ネパールで学んでいましたが家族の都合で来日。日本語教室『はじめのいっぽ教室』と出会い日本語を猛勉強し、高校に進学しました。「来日した外国ルーツの子どもたちは、日本語がわからない上に英語が読めないことがあり、学べる場所が必要。英語を学びたい子どもたちのためにできることをしたい。」と『はじめのいっぽ教室』で英会話教室を開始し、8月からは友人のカイルさんと『ぱれっと』でも始めました。カイルさんはテキストの作成を担当しています。現在『ぱれっと』に通うのは日本の子どもたち。書いて読んで日常単語を英語で説明したり、発音練習、リスニングを中心に学習できる教室です。



楽しく英語を学んでいる様子！



ボランティアグループ東風の会のみなさん



ぱれっと入口:ここから入り2階へ

わたしとぼくの居場所
ぱれっと



今年度5月、地域住民のボランティアグループ東風の会※が運営する“わたしとぼくの居場所『ぱれっと』”(以下『ぱれっと』)が誕生しました。ここは学校に行きたくない・行かない子どもたち(小・中・高校生)の居場所です。毎週木曜日10時~15時まで開設、無料で利用できます。リラックスしたり、何か作ったり、勉強したり、遊んだり、寝ていても何をしてもよく、いつ来てもいつ帰ってもよいところです。『ぱれっと』にお邪魔して、みなさんのお話を聞いてきました。

住所を頼りに向かうと、3階建てパステルカラーの黄色い建物に到着しました。さっそくエレベーターで2階へ。扉が開くと、居心地のよいダイニングルームが広がっていました。中央にはみんなが集えるテーブルが置かれ、壁には子どもが作った作品が飾られています。棚にはおもちゃや漫画も置かれています。

ここは、何をしてもいい場所。子どもたちは、思い思いに遊んでいます。小上がりスペースです。ボランティアさんがおしゃべりを楽しみながら、お昼の支度をしていました。まるで、どこか親戚のお家に遊びに来たようです。

3階はフリースペース。そこで代表の齋藤さんにお話を伺っていると「ご飯ができましたよ。」と呼ばれました。今日のお昼ご飯はオムライスとキュウリの塩もみ、わかめスープです。一緒に食べた子はそろって「いただきます」を言って、和やかに会食が始まりました。



ボランティアさんによる温かいお昼ごはん

ここでは毎回、ボランティアさんが作った温かいご飯(300円)を食べることが出来ます。お弁当を持参してもよく、一緒に食べるかどうかでも自分で決める事が出来ます。

食後、子どもたちは駄菓子屋さんへお菓子を買いに出かけていきました。ここを起点に、上飯田児童館などへ出かけし、バスケットボールやお絵描きを楽しむこともあるそうです。

運営は6~8人のボランティアで行っています。子どもたちが過ごしやすいよう居心地の良い居場所づくりを第一に考えています。

今年は、夏の暑い日に竹

※東風の会: 社会福祉法人めいほく福祉会による、ボランティアグループ